

読書の四季

図書館秘境探訪 ↳ 国立国会図書館編

国会議事堂の横、日本を動かす永田町に図書館がある。我々が昨年十二月十七日に訪れた国立国会図書館のことだ。この企画は普段我々が利用できない図書館を見学し、その内部を知ろうというものである。今回訪れた国立国会図書館は、入館資格が満十八歳以上のため普段我々高校生は利用できない。だが、図書委員の見学として通常の利用では入れない書庫を含めた館内を回ることができた。



そもそも国立国会図書館とはどういう図書館なのかというと、国立国会図書館法により設立された日本における唯一の国立図書館である。ここには、同法に定められた納本制度により日本国内で出版・刊行された図書などは全て納本される。これらの資料を永く保存するための活動のほか、国会答弁につき書籍・論文等の収集や国会議員へのレクチャーといった国会に属した機関という特徴に沿った役割も担う図書館だ。また国立国会図書館は東京本館・新館に加え上野に国際子ども図書館、京都に関西館があり、資料の保管を分担している。さて今回の国立国会図書館の館内見学では、本館の図書カウンター、新館の雑誌カウンター、新館の書庫を見学した。中でも新館の書庫は地下八階も

学習院高等科
図書委員会

会報
No.109

発行
2014.3.22

ある建物だ。ここで書庫に入る前に全員にあるモノが配られた。それはよく刑事ドラマなどで目にする靴の土やほこりをまき散らさないための靴のカバーだ。これは書庫の中に外からのゴミを持ち込まないようにするための措置である。またこの他の設備として、エレベーターも職員のパスがなければ動かない。書庫に入りする人数などを把握するためのシステムなどもあった。



このような管理体制のなか我々は、最初に一番下の地下八階に行った。そこで私たちは「光庭」という地上からの光が地下三十メートルにまで届く広場を目にする。



ここは地下で働く職員の健康を考慮しての施設で、丁度カフェなどがあるような広さだが、ここは本のための図書館。もちろん飲食は禁止なので書庫の中ではカフェができるはずもない。



この新館書庫見学では新聞・雑誌などのコレクションを見学したのだが、中でも驚いたことは学習院高等科が発行している「学習院高等科紀要」があったことだ。このような一般向けには発売されていない本も収集している充実さに驚いた。



また、地下一階には漫画のコレクションが置いてあり、漫画は閲覧希望が多いためか何人もの職員の方が出納作業をしていらっしやった。



ここで、今回図書委員が国立国会図書館の方に行ったインタビューの内容を紹介する。

一 どのような方の利用が多いですか？

— 国会関連で年間約四万件の対応、(一般の方の)年間の来場者数(東京本館)が約四六万人、一日当たり一六五〇人が来館されています。

二 どのくらい収蔵できますか？

— 東京本館全体では一二〇〇万冊、関西館では六〇〇万冊、国際子ども図書館では四〇〇万冊です。棚がいっぱいになったときの対応は？

— 新しい書庫を建設します。現在、国際子ども図書館は増築中で、関西館も将来的には二〇〇〇万冊収蔵可能にする予定です。

四 地震など災害に対する備えは？

— 比較的地盤の堅い立地であり、さらに地下に書庫があるため台風など

五 納本方法は？

— 毎週約一万点納本されます。方法は、一階カウンターに直接納入する場合や代行業者経由など様々です。

六 お宝はありますか？

— 今あるコレクション全て。ちなみに国宝はありません。

七 一番古い資料は？

— 集一切福徳三昧経です。七四〇年に発行されました。

「図書館秘境探訪」第二弾はいかがでしたか。国立国会図書館が所蔵する資料の多さ、書庫の広さに圧倒された見学となりました。また、今回はなじみのある雑誌や漫画の創刊号など様々な書籍や資料を見るこ

とができ貴重な体験となりました。

最後に、今回お世話になりました国立国会図書館の吉間さん、永田さんにはこの場を借りてお礼申し上げます。



* 集一切福徳三昧経

しゅういつさいふくどくざんまいきょう
光明皇后御願経。光明皇后(七〇一〜七六〇)が亡き両親、藤原不比等、橘三千代の追福のために発願した一切経で、奥書に「天平十二年五月一日記」の日付があることから、「五月一日経」とも呼ばれている。写経生によって書かれた唐風の美しい楷書で、奈良朝写経中の優品とされる。

引用 国立国会図書館HP

二年 中田隆徳